代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 672　2023年 10月号
1部60円
友の会会員は会費に含まれています
発行　東京勤労者医療会代々木病院
院長　河邉　博正
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

誰もが住み慣れた地域で安心して生活が送れるように

代々木病院健康まつり

わ・わ・わ（平和・人の輪・地域の輪）
～身近な病院であり続けたい～

10月14日(土)正午～午後3時

記念講演　**河邉 博正**医師
（代々木病院院長）

主催：健康まつり実行委員会　代々木病院　代々木健康友の会
後援：千駄ヶ谷大通り商店街振興組合・千駄ヶ谷大通り町会・千駄ヶ谷東部町会

【企画】
福引
ころばん体操
健康チェック（身長・体重・血圧）
血管年齢・体脂肪測定
手洗いチェック
医療・介護相談
輪投げ・射的
的当て・ヨーヨーつり
スーパーボールすくい
展示・俳句・コーラス　など

【模擬店】
やきそば
牛丼
フランクフルト
豚汁
五目ご飯
産直野菜の販売
フリーマーケット
ハートビートカフェ

※内容を一部変更する事がございます。

【院内ではマスクの着用をお願いします】

代々木病院3つの病棟の役割

代々木病院は地域住民の健康を支える役割、機能として3つの病棟を持っています。今号では、代々木病院の3つの病棟の特徴と役割、また意気込みについて、それぞれの病棟の師長にお話しを聞きました。（編集部）

3階：「地域包括ケア病棟」

３階の地域包括ケア病棟は、急性期病院へ入院して治療を行った後、すぐに自宅や施設に戻ることに不安がある地域の方々の入院を受け入れ、在宅復帰に向けてリハビリや在宅調整を行っていく病棟です。また、在宅で療養している方が具合が悪くなった場合も入院を受け入れ、当院で出来る範囲の治療も行っています。ご家族の介護疲れや、用事があるとき、介護サービスが入れないときなどの短期間の入院をすることもできます。

60日間を入院期間の目安として、その間にリハビリスタッフによる個別のリハビリや看護師による病棟訓練などを行い、身体機能の向上、維持を図っています。地域包括ケア病棟特有の集団リハビリは、他の患者さんとの交流も深めながら、楽しく和気あいあいとした雰囲気の中で、リハビリを進めています。

退院に向けては、地域のケアマネージャーさんや診療所・訪問看護の方々と連携し、介護サービスの調整や患者さんへの指導、ご家族への介護指導も行っています。また、リハビリスタッフを中心に家屋調査を行い、退院後の生活を見据えた環境調整もしています。施設入所を検討する際は、専門の相談員と相談ができます。

誰もが、住み慣れた地域でこれからも暮らしていけるよう、本人や家族の希望に寄り添いながら、日々取り組んでいます。

（３階病棟師長　風間咲緒里）

5階：「障害者施設等病棟」

５階の障害者施設等病棟は、脳梗塞や脳出血などの脳血管障害により何らかの障害が残った患者さんや、足・腰の骨折で手術を受けた患者さんに対するリハビリを主に行っています。また、パーキンソン病などの神経難病のある患者さんのリハビリや内服支援も行っています。また、リハビリが必要となった透析患者さんも多く受け入れている病棟です。

入院患者さんの多くは周囲の大学病院など大きな病院で急性期の治療を受けた後、そこから紹介を受けて転院して来られます。病状的には安定していますが、高齢で既往歴の多い患者さんが多く、リハビリのスタッフや医師とカンファレンスをしながら患者さんにとってベストな援助ができるよう取り組んでいます。

５階病棟は治療や手術を主な目的とした病棟ではありませんが、患者さんがより良い入院生活を送れるようスタッフみんなで協力しながら日々奮闘しています。

患者さんをまるごと捉え、退院後の患者さんをイメージしながら院内院外の多職種の方と連携を取りながら、退院後も安心して地域で生活が送れるように取り組んでいます。

これからも地域の中でなくてはならない存在となるよう頑張っていきます。

（５階病棟師長　大和久健次）

4階：「回復期リハビリテーション病棟」

４階の回復期リハビリテーション病棟は、脳梗塞や脳出血、骨折などで治療を終えたり、肺炎などで一定期間寝たきりだったりした方などが、リハビリをするために入院されています。

みなさん、「歩けるようになりたい」「自分でトイレへ行けるようになりたい」などの思いを胸に日々リハビリに取り組んでいらっしゃいます。私たちも患者さんの気持ちを大切にし、その希望を叶えられるよう、医師、リハビリスタッフ、病棟看護師、介護士が協力しあっています。「生活そのものがリハビリである」という考えのもと、歯磨きや着替え、トイレ内のズボンの上げ下げなど日常生活の一つひとつの動作を患者さん自身が行えるように援助していきます。また、病棟内でも看護師や介護士が歩行訓練をするなど患者さんの目標に向けて日々努力しています。

退院までの間にはご家族にも来て頂いて、退院先についての話し合いをします。ご自宅だけでなく、有料老人ホームや老人保健施設などの施設という選択もあります。ご自宅の場合には、ご自宅に伺って手すりなどの配置位置の確認をしたり、ケアマネや訪問看護などと連携したりして準備をすすめます。もし、施設を選択した場合には施設探しを専門家が行います。スタッフ一同、患者さんやご家族の気持ちに寄り添えるよう努力をしています。

（４階病棟師長　紀平由美）

千駄の萱

観測史上最悪の猛暑もようやく落ち着き、秋が歩みを進めてきた。一方で政治の歩みは過去に向かって行こうとしている。戦後78年という時が流れ、様々な平和と民主主義への取り組みが積み重ねられてきたにもかかわらず、流れを戻そうとする勢力が常に存在する。国際情勢はロシアのウクライナ侵略に伴い一変した。多くの国が軍事費増額に走り、専守防衛をうたってきた日本でも先制攻撃論・改憲論が勢いを増している。これらの行き着く先は「新たなる戦前」であり「戦争が出来る国」となる。これら論者の根拠は外国脅威論であり、戦前のアメリカ・イギリスがロシア・中国・北朝鮮という覇権国家に置き換わった形である。実際にこれらの国家は脅威となる行動をとっており、それは認めてはならないが、日本が対抗して軍備拡張することこそ「いつか来た道」となってしまう。容易な道ではないが、私たち人間は力では無く知性で平和共存の道を歩まなければならない。不完全だがASEANやEUはそのような理念を掲げて生まれた。全ての戦火を終わらせてこそ人間だ。（ひ）